

『第 30 回 法人会全国青年の集い 北海道大会』に参加して

副部長 長濱 司

1987 年に「第 1 回全国青年の集い」が仙台市で開催されて以来、今年で 30 回目を迎えることになりました。今年は 9 月 8 日・9 日に北海道の旭川市へ、全国から法人会青年部会員が集まりました。阿波麻植法人会からは、例年の研修旅行もかねて総勢 9 名での参加となりました。

法人会は租税の理解、望ましい税制・財政のあり方の提言、納税意識の高揚と税知識の普及啓蒙に努めることを責務としています。その一環として私たち青年部会が行っている「租税教育活動」は、日本の次代を担っていく子供たちに税の仕組みや大切さを伝える極めて重要な取り組みです。

全国法人会総連合青年部会連絡協議会の醍醐会長は、「今後は青年部会がさらに主体的な活動を展開するとともに、活動の質をより一層向上させていく必要があると考えられている。昨年より「税の使途」とりわけ社会保障制度について考える取り組みを進め、その中で学んだことを基に、今後は、子供たちに税と社会保障制度の現状や課題を伝え、将来に向けてどうすれば良いのかを一緒に考える新たな租税教室を推進していきたいと考えていく。」との考えを示しました。

これを基に、全国から青年部会長が集まる部会長サミットでは、税の使途（社会保障制度）について考え、それを租税教育活動へ反映することをテーマに真剣に議論し、新たな租税教育活動について情報を共有しました。

また、全国青年の集いのもう一つの目的でもある、租税教育活動プレゼンテーションが行われました。これは、全国各地より選抜された局連の代表による租税教育活動のプレゼンテーションです。私たちが所属する高松局連からは、同じ徳島県の池田法人会が発表しました。

「未来を創る中学生に今、何を伝えられるか？」をテーマに「地方創生・再生と税」を切り口として、地方の抱える問題（過疎化=税の減収）を一緒に考えてもらう租税教室を行っている、という内容です。「中学校版 租税教室オリジナル教材」を制作したり、全国の多くの法人会が危惧する問題を取り上げており、他の法人会でもオリジナル教材として制作が可能な内容となっていました。

何度か事前にプレゼン発表を聞いたのですが、聞くたびに内容がブラッシュアップされ、当日は本当に素晴らしい発表でした。発表の翌日に最優秀賞（1 組）優秀賞（2 組）が発表され、みごと優秀賞に選ばれました。

来年は高知市にて、全国青年の集いが行われます。高知県連は「四国は一つ」というスローガンの下、四国 4 県の青連協が一致団結して盛り上げようと準備を進めています。阿波麻植法人会青年部としても、大会が成功するように出来る限りの協力をしていきますよう！